様式３－３

【新規】R.２～R.３

教育課程研究指定校事業実施計画書（令和２年度）
－研究課題１　高等学校－

都道府県・指定都市番号	４３	都道府県・指定都市名	熊本県

（公立）・　私立　・　国立

１　研究指定校の概要

<table>
<tr><td>ふりがな
学校名</td><td colspan="5">くまもとけんりつあまくさたくしんこうとうがっこう　まりんこうしゃ
熊本県立天草拓心高等学校（マリン校舎）</td><td>校長氏名</td><td>なかむら　ようすけ
中村　洋介</td></tr>
<tr><td>所在地</td><td colspan="7">〒863-2507　熊本県 天草郡 苓北町 富岡 3757 番地
電話 0969-35-1155　FAX.0969-35-2326
E-mail　amakusatakushin-h@pref.kumamoto.lg.jp</td></tr>
<tr><td>設置する
課程
(R2.4.1 見込)</td><td colspan="5">全日制課程</td><td colspan="2" rowspan="5">(R2.4.1 見込)
教員数　32 名
［調査研究にかかわる教科等の教員数］
15 名</td></tr>
<tr><td colspan="6">生　徒　数（R2.4.1 見込）</td></tr>
<tr><td>学科名</td><td>１年</td><td>２年</td><td>３年</td><td>４年</td><td>計</td></tr>
<tr><td>普通科
総合コース</td><td>1</td><td>14</td><td>9</td><td></td><td>24</td></tr>
<tr><td>海洋科学科</td><td>39</td><td>27</td><td>38</td><td></td><td>104</td></tr>
<tr><td>特記事項</td><td colspan="7">各学科２年次でコース並びに，類型・系列に分かれる。</td></tr>
</table>

２　研究主題等

<table>
<tr><td>教科等名</td><td>水　産</td><td>教科課題番号等</td><td>1</td></tr>
<tr><td>学校における研究主題</td><td colspan="3">主体的に諸課題の解決に取り組む資質・能力を備えた生徒の育成に向けた研究
～これからの水産教育に資する学習指導と評価方法の在り方について～</td></tr>
<tr><td>研究主題設定の理由</td><td colspan="3">熊本県立天草拓心高等学校（以下，天草拓心高校）は，天草地域３高校を再編整備し，地域性を考慮した校舎制として平成 27 年度に創立した全日制高校である。校舎制では，本渡校舎（普通科，農業科，商業科１学年５クラス）とマリン校舎（普通科，水産科１学年２クラス）があり，統合された３高校の伝統を礎に専門的・先進的な教育活動を展開している。
一方，マリン校舎の海洋科学科（水産科）は，県立漁民道場を設立の基盤とし，県内唯一の水産・海洋を学べる高校とし時流の中で幾多の改編を経て現在に至っている。校訓「夢は空より高く　心は海より広く　道を拓かん」を教育方針に，未来を切り拓く創り手としての豊かな人間性を備えた人材育成を目指している。教育スローガンを『人間力を高め，更なる挑戦！～夢の実現，未来を拓く～』とし，その中で，育成を目指す生徒像を次のように設定している。
(1) 志を高く持ち，何事にも誠実に全力で取り組み，未来を切り拓こうとする生徒
(2) 人の心の痛みがわかり，自他を認め合える生徒
(3) さわやかな挨拶ができ，知・徳・体のバランスが取れた生徒
(4) 適切なコミュニケーションを身に付け，実社会で活躍できる生徒
これらを踏まえ，この事業による研究主題を，平成 30 年３月に告示された学習指導要領を念頭に，主体的に，探究的な学びを持って，諸課題の解決に取り組む資質と能力を育むこれからの水産教育の在り方を検証し，魅力ある水産学習の展開へ向けた学習指導と評価方法の在り方と設定した。</td></tr>
<tr><td>研究の内容</td><td colspan="3">(1) カリキュラム・マネジメントに資する体系的・系統的な水産学習の検証
～育成すべき資質・能力を明確にしたコース，類型・系列の学習の在り方～</td></tr>
</table>

	⑵「主体的・対話的で深い学び」を実現した水産科目の学習指導と評価方法の研究 ア　生徒の興味・関心を高め，学習意欲を引き出す授業の工夫 イ　思考力・判断力・表現力を身に付ける授業の工夫 ウ　目標に準拠した評価方法並びにポートフォリオの在り方について ⑶ 地域資源を活用し，地域産業界と連携した水産・海洋に関する実践的・体験的な学習活動の展開 ～地域産業界や研究機関等と連携した学習や教育活動の充実へ向けて～

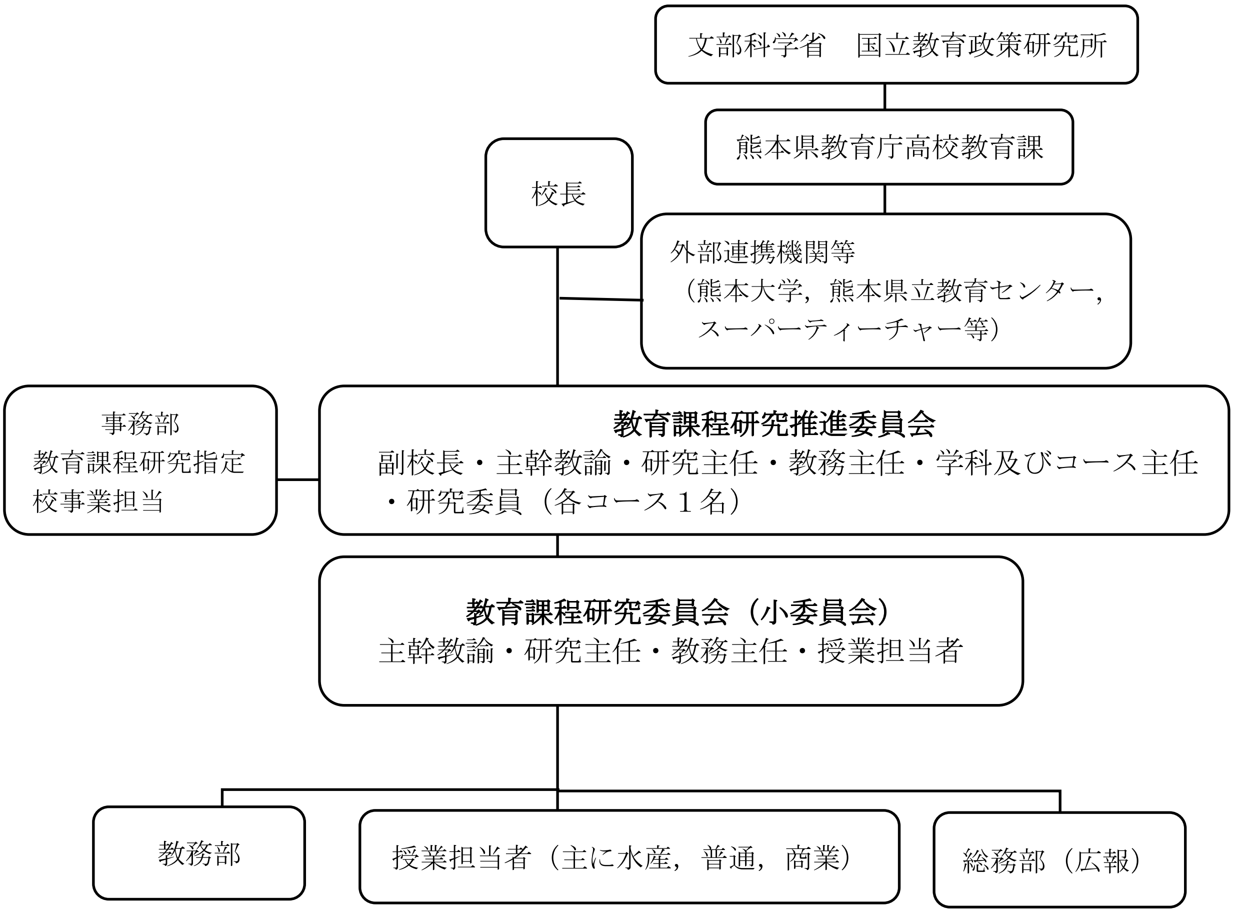
３　研究体制等

⑴　教育課程研究委員会（小委員会）を主幹教諭・研究主任・教務主任及び授業担当者で構成し，研究の方向性の確認と計画等を作成するために月２回ほど打合せを行う。

⑵　教育課程研究推進委員会を副校長・主幹教諭・研究主任・教務主任，学科及びコース主任，授業担当者で構成，校務分掌にも位置づけし，研究の方向性や進捗状況等を検証するために学期に２回ほど会議を開催する。

⑶ 教育課程研究指定校事業推進委員会において，外部有識者として熊本大学教育学部教授・田口浩継氏，熊本県立第二高校スーパーティーチャー　田尻美千子氏と協議する機会を年２回ほど設定する。

なお，検証した内容は，教職員全体で共有し，組織的に学校全体で取り組んでいく。研究成果については，学校ホームページ等を活用して情報を発信する。



４　研究の計画

（１）研究の準備

実施期間	取組の計画	期待される効果
令和２年 ３～５月	⑴ 生徒及び保護者，教職員へのアンケート内容の検討。 ⑵　新学習指導要領による教育課程の在り方について，現行学習指導要領による教育の成果と課題を整理し，研究	○年度当初，現状を把握できる。 ○現行学習指導要領

	に関する全体構想と各科目での取り組む方向性を整理。 (3) 新学習指導要領に準拠した教育課程の編成については,「教育課程編成の手引き」(熊本県版) を活用して校内で協議。	による成果と課題を整理し，研究を進める方向性を整理。 ○教育課程編成に対する校内での考え方を整理できる。

（２）研究計画

	実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等	期待される成果等
令和二年度	１学期 ２学期	(1) 校内委員会・職員研修の開催 ・校内での研究指定校事業の説明 ・構想図の整理 ・生徒及び保護者, 教職員へのアンケート等による情報収集 (2) 生徒の現状把握 ・生徒の実態把握（アンケートの実施） ・ポートフォリオ等による生徒自身の振り返り ・把握した状況を踏まえた授業等の検証・工夫，充実 (3) カリキュラム・マネジメントに資する体系的・系統的な水産学習の整理 ・コース並びに類型・系列の教育課程概要表・学習指導計画概要表の作成 (4) 「主体的・対話的で深い学び」を実現した水産科目の学習指導と評価方法の検証 ・生徒の興味・関心を高め，学習意欲を引き出す授業の工夫と充実 ・思考力・判断力・表現力を身に付ける授業の工夫と改善 ・授業で使用する学習記録の作成 ・ポートフォリオの在り方に関する検証 ・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施） ・生徒の学習成果の検証 ・実験・実習等における評価 (5) 地域資源を活用し，地域産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の展開 ・地域の物や人材等と連携した水産教育の展開 ・ポートフォリオの在り方及び活用，検証 ・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施） (6) 研究内容の検証 ・生徒の学習成果の検証 ・「評価」をもとにした指導内容の見直し ・先進地訪問による研究内容の検証 (7) 教育課程研究指定校事業推進委員会の開催 ・課題の把握と情報共有 (8) 教育課程研究指定校中間発表会の開催 ・中間成果の報告及び情報発信	○事業内容の周知 ○学習上の課題の明確化 ○体系的・系統的な水産学習の整理と確認 ○生徒の興味・関心の向上 ○記録をまとめる力や情報収集能力の向上 ○身に付けた資質・能力の確認 ○授業改善後の成果と新たな課題の明確化 ○指導と評価の一体化と授業改善
	３学期	(1) 指導方法と評価方法のまとめ (2) 成果と課題（一年次のまとめ） ・生徒の実態把握（アンケートの実施） ・校内研修会における研究成果の発表及び研究協議 (3) 次年度へ向けた検証と改善 ・詳細計画としての教科指導計画の検証	○新たな課題の共有 ○研究成果と課題の明確化と共有 ○次年度に向けた課題の共有と他教科との連携

		・年間指導計画及びシラバス等の作成	
令和三年度	１学期 ２学期	(1) 校内委員会・職員研修の開催 ・二年次の研究指定校事業に関する協議 ・生徒及び保護者，教職員へのアンケート等による情報収集 ・生徒の実態把握（アンケートの実施） (2) カリキュラム・マネジメントに資する体系的・系統的な水産学習の再検証 ・全体構想の見直し ・作成した教育課程概要表・学習指導計画概要表の確認 (3) 「主体的・対話的で深い学び」を実現した水産科目の学習指導と評価方法の検証 ・生徒の興味・関心を高め，学習意欲を引き出す授業の工夫と充実 ・思考力・判断力・表現力を身に付ける授業の工夫と改善 ・授業で使用する学習記録の作成 ・ポートフォリオの在り方に関する検証 ・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施） ・生徒の学習成果の検証 ・実験・実習等における評価 (4) 地域資源を活用し，地域産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の展開 ・ポートフォリオの活用及び検証 ・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施） (5) 研究内容の検証 ・生徒の学習成果の検証 ・「評価」をもとにした指導内容の見直し ・先進地訪問による研究内容の検証 (6) 教育課程研究指定校事業推進委員会の開催 ・課題の把握と情報共有 (7) 教育課程研究指定校発表会の開催 ・地域及び関係機関に向けた成果発表会（公開，発信）	○現状の把握と目標設定 ○１年次の専門科目との関連づけと興味・関心の醸成 ○授業展開の向上 ○生徒自らが表現できる力をつける学習場面の設定（主体的・対話的で深い学びの設定） ○育成した資質・能力を確認 ○生徒・教職員への周知と意識づけ ○現状の把握と指導改善 ○事業成果の普及
	３学期	(1) 諸データの整理と研究のまとめ ・生徒の実態把握（アンケートの実施） (2) ２年間を通した成果と課題 (3) 報告書の編集及び発行 (4) 教育課程研究指定校事業研究協議会での報告 (5) 国立教育政策研究所への報告書送付	○事業記録の整理・保存と活用 ○事業のまとめによる指導方法の検証

5　研究のまとめの見通し

(1) 生徒及び保護者，教職員へのアンケート調査を実施（学校評価並びに授業評価等も含む）し，現状を認識するとともに，取組が成果として表れるようにまとめる。
(2) 学習の記録やワークシート等による生徒の自己評価や評価者評価並びに，面談による評価と検証を進めることができるようにまとめる。
(3) 公開授業・研究授業及び校内研修会における学習指導と評価方法を検証し，他校へも成果を波及させる。
(4) 研究状況等を教育課程研究推進委員会で検証し，取組に反映できるようにまとめる。

6　研究実績

○文部科学省　地域との協働による高等学校教育改革推進事業＜プロフェッショナル型（農業），令和元～３年度（本渡校舎）＞

様式３－３